令和８年度南極地域活動計画確認検討委員会

議事概要

日時・出席者

開催日時：令和８年９月15日（火）13：30～15：30

場　　所：ウェブ会議

出 席 者：（委員）

白石　和行	国立極地研究所　名誉教授
飛原　英治	東京大学名誉教授
星野　一昭	元鹿児島大学　特任教授
増澤　武弘	静岡大学　客員教授
山内　恭	国立極地研究所　名誉教授

（オブザーバー）

小野寺 多映子	文部科学省 研究開発局 海洋地球課　極域科学企画官
堀之内　豊	文部科学省 研究開発局 海洋地球課　課長補佐
朝田　絵理	文部科学省 研究開発局 海洋地球課　主任
田崎　真生	文部科学省 研究開発局 海洋地球課　係員
伊村　智	国立極地研究所　南極観測センター　センター長
橋田 元	国立極地研究所　南極観測センター 副センター長（観測担当）
山田　嘉平	国立極地研究所　南極観測センター 設営業務担当副マネージャー
柏木 隆宏	国立極地研究所　南極観測センター 設営グループ生活支援チームリーダー
吉岡 博	国立極地研究所南極観測センター　事務職員

（事務局（環境省））

長田　啓	環境省　自然環境局　自然環境計画課　課長
羽井佐　幸宏	環境省　自然環境局　自然環境計画課 生物多様性戦略推進室長
尼子　直輝	環境省　自然環境局　自然環境計画課　分析官

齋藤　佑介	環境省　自然環境局　自然環境計画課 生物多様性戦略推進室　室長補佐
吉武　智哉	環境省　自然環境局　自然環境計画課 生物多様性戦略推進室　係長
福元　風夏	環境省　自然環境局　自然環境計画課 生物多様性戦略推進室　係員

議事記録

1. 開会

・出席者の紹介、挨拶。

・議長（環境省自然環境局長代理：自然環境計画課長）より挨拶。

２．議事

（１）法改正の概要と確認申請対象の変更について

■環境省

・資料１について説明。

（資料１について）

■増澤委員

・「極めて軽微な影響」と「軽微な影響」の違いはどのように判断しているのか。

・委員会に諮られる案件と諮られない案件の境界について確認したい。

■環境省

・南極条約環境保護議定書にも同じような文言があるが、明示的な境界は存在しない。

・活動内容ごとに個別判断という形になる。

■増澤委員

・こうした仕組みは他法令にも見られるが、行政判断による運用部分が大きくなる。

・状況について理解した。

（２）第 68 次南極地域観測隊活動計画について

①全体概要等について

■環境省

・資料２－１について説明

■国立極地研究所

・資料２－２、２－３について説明

（資料２－２について）

■飛原委員

・BOD については改善されているが、依然として透明度の改善が不十分な状況。

・沈降処理の追加等処理方法による対策ではなく、今後も洗剤の使用量制限等の運用による改善を継続するのか。

■国立極地研究所

・コンサルタントからの助言もふまえ、原水が濃縮された汚水であることが要因として

大きいと考えており、現在は運用改善を中心に実施している。
・技術的改善策についても引き続き検討したい。
■飛原委員
・隊員の負担に依存する形ではなく、可能であれば水処理の技術的観点からの改善も進めるとよい。

（資料２－３について）
■増澤委員
・建物更新について予算減少が原因との話があったが、68 次隊の予算は計画よりも大きく減少したのか？
■国立極地研究所
・配賦された予算については第Ｘ期計画については変更なく一定の金額をいただいている。
・一方で、物価変動により資材や輸送コストの上昇が大きく影響しており、優先順位を考慮した結果、数年程度の延期となった。2～3 年遅れの見通しで考えている。

■飛原委員
・汚水処理設備の建設が最後だが、全体更新の計画に遅れが出ている。
・遅れるほど全体活動への制約が出るのではないか。新汚水処理設備を早めに作れれば一部でも共用しながら新しく建設した施設を使えるのではないか。
■国立極地研究所
・新しい夏季宿舎等の利用は、すべての建物更新が完了し、新汚水処理設備も運用を開始してからとなる。
・ご助言の通りの部分もあるので、追って検討したい。

■山内委員
・倉庫棟を解体するとの説明であったが、その機能はどのように代替するのか。
・発電棟にある浴場施設や貯水設備等はどのように移設される計画か。
■国立極地研究所
・倉庫棟機能については、新夏季隊員宿舎完成後に一時的にそちらへ移転する。
・その後、新発電棟完成後同棟へ機能移転する計画である。浴場設備についても新発電棟へ整備する予定である。
■山内委員
・浄水システムは従来通りで問題ないのか。荒金ダムや飛雪だめの貯水タンクはどうなるのか。

■国立極地研究所
・ダムについては夏季隊員宿舎の横にある第一ダムの使用も検討している。

②初期的環境影響評価実施対象事業の実施状況
■国立極地研究所
・資料３、資料４－１、資料４－２について説明。

（資料３について）
■星野委員
・67 次隊の掘削作業期間が 3 日間と非常に短く、撤去作業の進捗に懸念がある。本来は、何日を計画していて、結果的に実施日がなぜ少なくなったのか聞きたい。
・30～40 年という工期はあまりに長すぎるため、理由を聞きたい。
・参考資料 6 の基本計画検討書では、専従体制の構築や重機の追加、夏隊の重点活動への位置づけ等により、より短期間での撤去を想定していた。現在の計画との差について説明を求める。
■国立極地研究所
・67 次隊は昭和基地に滞在する期間が過去最も短かったことと、夏季隊員宿舎の建設に重機のリソースを配分したこともあり重機を使った掘削の期間については当初より 5 日間を想定していた。結果として天候等にも恵まれず、3 日間となったがその中では十分な作業ができた。68 次隊では 7 日間を想定しており、すでに素掘側溝の整備なども完了しているので 67 次隊よりも作業は進むと考えている。
・30～40 年という期間は長いという認識は持っており、望ましい期間とは考えていない。ただし、これを 10～20 年に短縮するとなると、現在はその他の計画への影響が非常に大きい。
・現在第XI期 6 か年計画の検討の中で、できる限り工期短縮の可能性についても検討しているところ。

■星野委員
・他国でも同様に埋立て等していた廃棄物もあるはずである。その事例について、処理計画期間等について海外の事例との比較もすべきであると思う。
■環境省
・環境省側で、情報の整理をしてご報告する。
■国立極地研究所
・オーストラリアの事例について共有する。埋立てや放置をした例は多数あるが、オーストラリアの基地では、油を含んだ土壌を封じ込めたうえで生物分解によって土壌の改善を図っており、数十年にわたる計画である。基地そのものを廃棄、放置してしまった

場所も何か所かあるが、撤去そのものが計画されていないところもある状況である。
■星野委員
・この廃棄物処理をどこまで重要な位置づけとするかという問題だと感じる。改めて優先順位の再検討をし、予算も獲得していただきたい。

■白石委員
・長年の試行錯誤を経て、作業がルーチン化しつつある点は評価できる。一方で、30～40 年という見通しは長く、引き続き工期短縮の工夫を検討してほしい。
・活動層の深さは影響するのか。そうであれば、活動層の深いのは 2 月の上旬ではないか。その時期に作業ができるとよいと思う。越冬隊も一部作業を行うことで活動期間を長くとれるのではないか。活動層について極地研はどう判断しているか。
■国立極地研究所
・調査の中では、1.2～1.5ｍのあたりから凍土になっており従来の 0.25 ㎥バックホウでは削岩機を用いても作業ができなかった。掘削しやすいのは 2 月上旬であるため 1 月の下旬から 2 月の中旬を作業期間と考えてきた。この 2 ～ 3 年で 0.5 ㎥級のパワーショベルであれば凍土を崩しやすくなったのでより掘削しやすくはなっている。越冬交代は 2 月 1 日となるが、越冬隊員も作業に参加する予定。

■増澤委員
・掘削土壌中の有機物の有無について確認したい。
・有機物が含まれる場合には、生物分解など別の処理方法も考えられるのではないか。
■国立極地研究所
・少なくとも生物由来の有機物が大量に混在している状況ではないと考えている。
・当面は撤去を基本方針として進める。

■環境省
・環境省としても委員から指摘のあったとおり、30～40 年という工期は非常に長いと認識している。
・次期 6 か年計画の検討において、関係機関とともに工期短縮等について検討したい。

【審議結果】
■議長
全体を通して「確認すべきでない」旨の意見はなかったので、今後、事務局で活動計画の詳細について精査し、特段の問題がなければ、計画のとおり確認を行うという方向で審査を進める。

３．報告

（３）近年の事故事例について

■国立極地研究所

・資料５について説明

■白石委員

・スノーモービル事故現場写真を見る限り、安全なルートとは思えない。

・当該行動は適切であったのか。

■国立極地研究所

・結果として適切ではなかった。

・行動判断上の反省事例であり、安全管理の見直しを実施した。

（４）第 67 次観測隊における環境省職員同行報告書

■環境省

・資料６について説明

■星野委員

・従来と比較しても環境省による現地確認が有効に機能しているという印象。

・今後も極地研究所との情報共有と改善を進めてほしい。

４．その他

■文部科学省

・昭和基地における直近の燃料流出事案については、国立極地研究所から最終報告を受けている。

・同様の事案が再発しないよう引き続き対応を求めていく。

５．閉会

以上